

松江工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	電気回路Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		0034		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		電気情報工学科		対象学年		4	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		続電気回路の基礎 第3版: 西巻正郎, 下川博文, 奥村万規子 共著, 森北出版必要に応じて, プリントを配布する。					
担当教員		宮内 肇					
到達目標							
(1) 過渡現象の解析が正しく理解できる (2) 非正弦波交流回路の解析が正しく理解できる (3) 演習課題の設問について正しく解答を行うことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		過渡現象の解析が正しく理解できる		過渡現象の解析が理解できる		過渡現象の解析が理解できない	
評価項目2		非正弦波交流回路の解析が正しく理解できる		非正弦波交流回路の解析が理解できる		非正弦波交流回路の解析が理解できない	
評価項目3		演習課題の設問について正しく解答できる		非演習課題の設問について解答できる		演習課題の設問について解答できない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 E2							
教育方法等							
概要		電気回路は、電気・電子、情報通信分野に関連する専門科目を学習する上で、必要不可欠の基礎科目である。本科目は、3年生までに電気回路で修得した知識をもとに、過渡現象、非正弦波交流回路について学ぶ。過渡現象においては、RL回路、RC回路、RLC回路に関する解法の理解、非正弦波交流回路においては、各受動回路におけるフーリエ級数による解析法を理解できるレベルとする。					
授業の進め方・方法		到達目標(1)、(2)について、期末試験(100点満点)で評価する。(3)について提出された演習課題レポートで評価する。 評点は、期末試験80%、演習課題20%で評価し、60点以上(100点満点)を合格とする。 【自学自習】予習・復習 4.5時間 定期試験の準備 6時間 *出席要件: 3分の2以上の出席					
注意点		学修単位科目であり、1回の講義(90分)あたり180分以上の予習復習をしているものとして講義・演習を進めます。 授業では大学学部レベルの書籍に掲載された内容を中心に解説を行い、同範囲で定期試験を行います。 *再評価試験・追認試験: 有 *教員室: 651教員室(専攻科棟5階)					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期		1週	過渡現象の概要		定常現象と過渡現象を理解する		
		2週	LR回路、CR回路		LR回路、CR回路の過渡現象の解析法を理解する		
		3週	LCR回路		LCR回路の過渡現象の解析法を理解する		
		4週	初期値		磁束鎖交数保存の理、電荷保存の理による初期電流、初期電圧の求め方を理解する		
		5週	ラプラス変換		ラプラス変換法を用いた過渡現象の解析を理解する		
		6週	インディシャル応答とインパルス応答		電気回路網のインディシャル応答とインパルス応答を理解する		
		7週	ラプラス変換による解析の演習		ラプラス変換による過渡現象の解析の例を理解する		
		8週	中間試験		過渡現象の解析が理解できるか試験する		
		9週	非正弦波交流回路の解析の概要		周期関数と非正弦波交流について理解する		
		10週	フーリエ級数展開(1)		非正弦波交流のフーリエ級数展開を理解する		
		11週	フーリエ級数展開(2)		非正弦波交流のフーリエ級数展開の例を理解する		
		12週	非正弦波の実効値		非正弦波交流の実効値、ひずみ率、波高値、波形率、曲線率を理解する		
		13週	非正弦波交流回路の計算(1)		非正弦波交流を受動回路に印加した場合の解析法を理解する		
		14週	非正弦波交流回路の計算(2)		各種非正弦波交流回路の例を理解する		
		15週	期末試験		非正弦波交流回路の解析が理解できるか試験する		
		16週	まとめ		期末試験の返却回答を行う		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	電気回路	電荷と電流、電圧を説明できる。	3		
				オームの法則を説明し、電流・電圧・抵抗の計算ができる。	3		
				キルヒホッフの法則を用いて、直流回路の計算ができる。	3		
				合成抵抗や分圧・分流の考え方をを用いて、直流回路の計算ができる。	3		
				ブリッジ回路を計算し、平衡条件を求められる。	3		
				電力量と電力を説明し、これらを計算できる。	3		

			正弦波交流の特徴を説明し、周波数や位相などを計算できる。	3	
			平均値と実効値を説明し、これらを計算できる。	3	
			正弦波交流のフェーザ表示を説明できる。	3	
			R、L、C素子における正弦波電圧と電流の関係を説明できる。	3	
			瞬時値を用いて、交流回路の計算ができる。	3	
			フェーザ表示を用いて、交流回路の計算ができる。	3	
			インピーダンスとアドミタンスを説明し、これらを計算できる。	3	
			キルヒホッフの法則を用いて、交流回路の計算ができる。	3	
			合成インピーダンスや分圧・分流の考え方をを用いて、交流回路の計算ができる。	3	
			直列共振回路と並列共振回路の計算ができる。	3	
			相互誘導を説明し、相互誘導回路の計算ができる。	3	
			理想変成器を説明できる。	3	
			交流電力と力率を説明し、これらを計算できる。	3	
			RL直列回路やRC直列回路等の単エネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。	3	
			RLC直列回路等の複エネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。	3	
			重ねの理を用いて、回路の計算ができる。	3	
			網目電流法を用いて回路の計算ができる。	3	
			節点電位法を用いて回路の計算ができる。	3	
			テブナンの定理を回路の計算に用いることができる。	3	

評価割合

	中間試験	期末試験	演習課題	合計
総合評価割合	0	80	20	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	0	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0